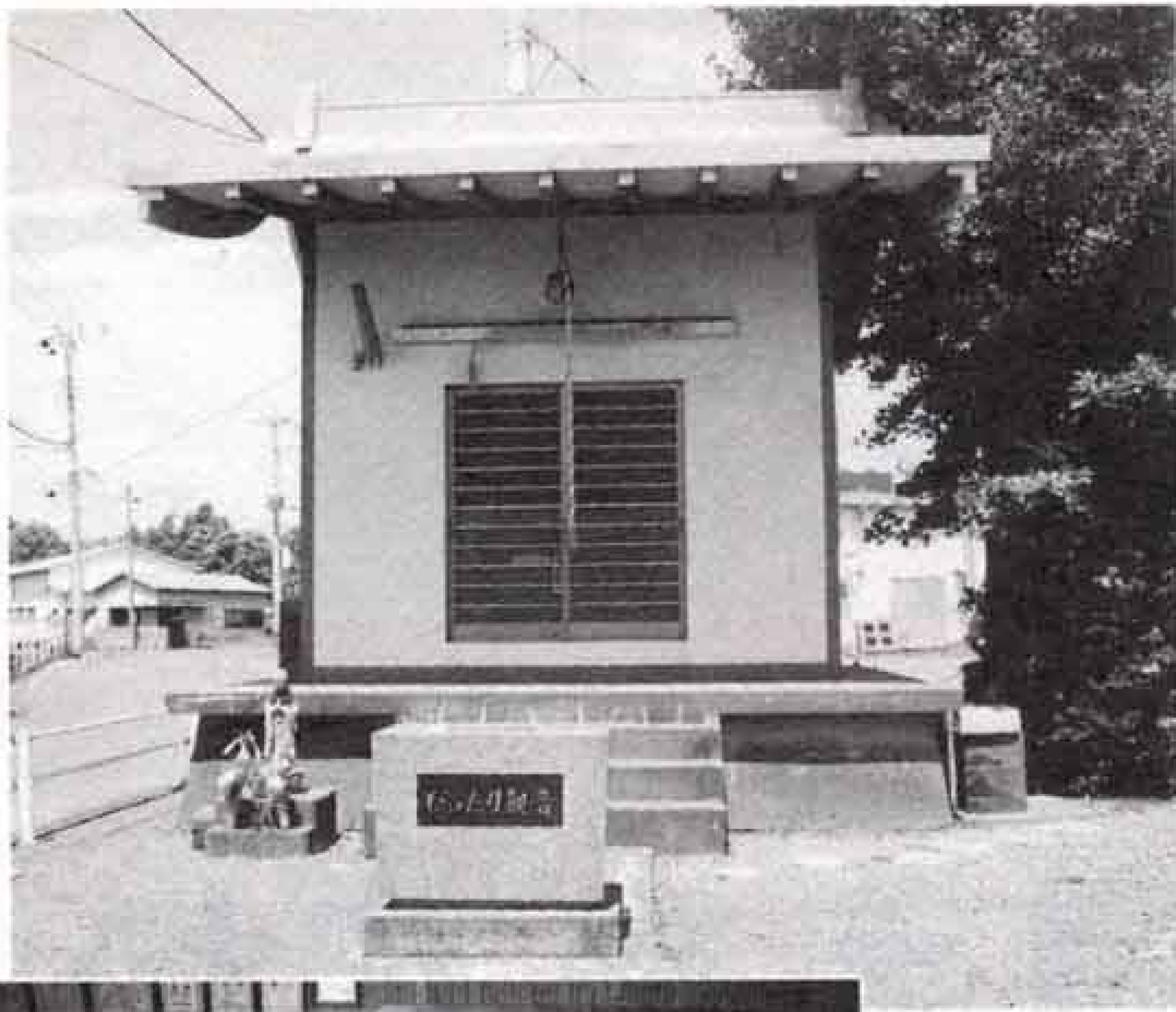


富士の民話 あれこれ

田子浦地区の宮島新田に、馬頭観音を祭る小さな観音堂があります。この観音は「ぴったり観音」と呼ばれ、訪れる人に親しまれています。

宮島新田の

ぴったり観音



▶ぴったり観音のお堂



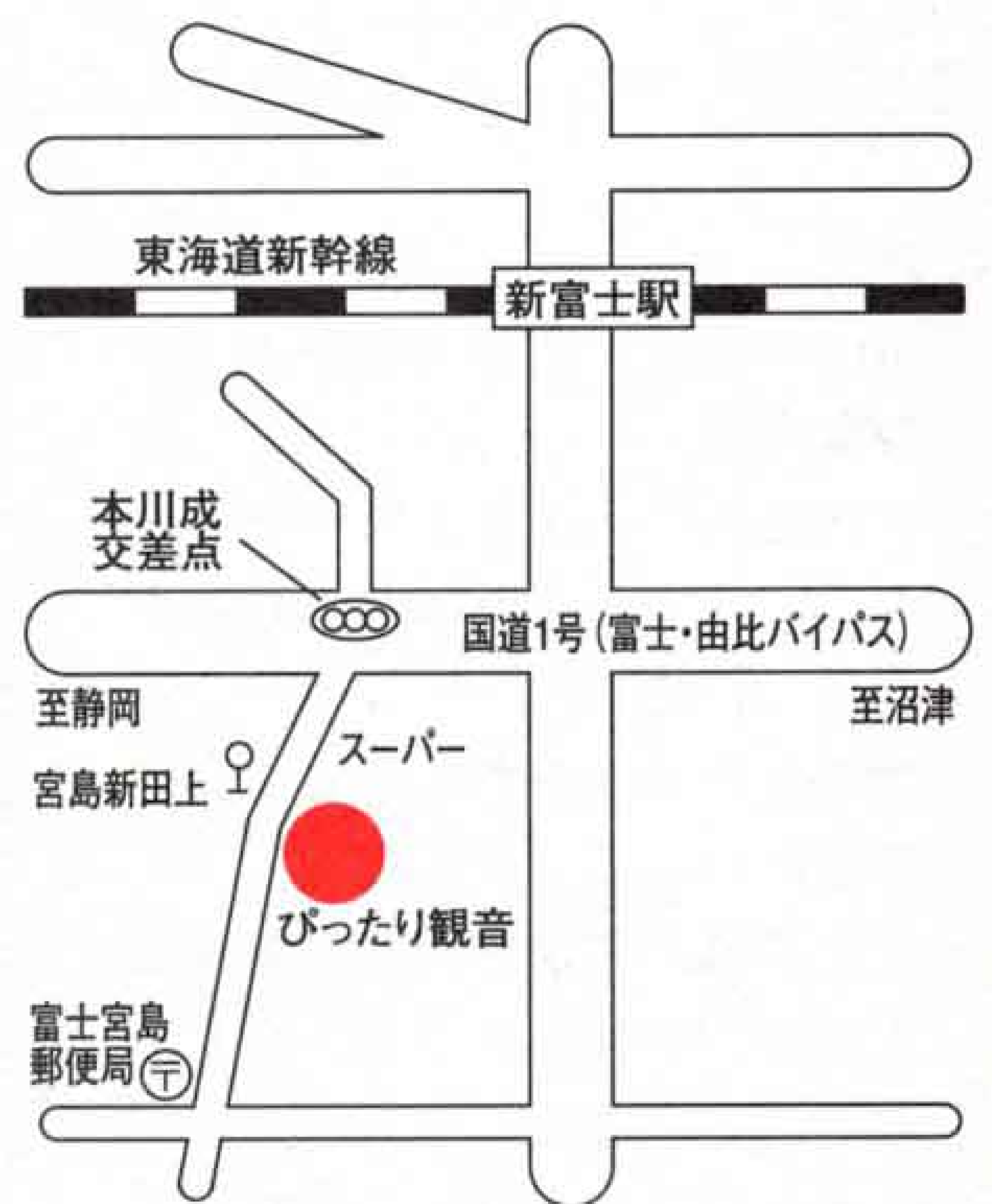
◀宮島新田観音太鼓の皆さん

馬頭観音は、馬をはじめとした生き物の霊を救う仏様です。馬頭観音は市内にも数多く見られ、農業を通じた人と動物とのかかわり合いの深さを示してくれています。

昔は「つくれ場」と呼ばれる共同の作業所がこの村にもありました。「つくれ場」というのは、農家の仕事を手伝う馬や牛の足のつめが伸びたり、次第にささくれてきたりしてしまふので、それをかまのような刃物を使って切るなどして足のつめを直す場所でした。宮島新田にもつくれ場があり、いつのころからか、農業を手伝ってくれる馬や牛の供養をするため、馬頭観世音菩薩を祭るようになった。

宮島新田の馬頭観音が「ぴったり観音」と呼ばれているのは、昔、ここにおじいさんの堂守が住んでいて、村人が病気になる、「なむ、ぴったり。なむ、ぴったり」と痛いところをさすってやると不思議に治ったことからと言われていました。また、おじいさんが易をやっていた、ぴたりと当てるのでぴったり観音と言う説もあるようです。

戦後、観音堂は火事で焼けてしまいましたが、その後、再び観音堂を建て、区の守り神として祭っています。また、毎年六月には区を挙げてお祭りを開き、観音さんの周辺は大変にぎわいます。



宮島新田区区長
望月 常男 さん
(宮島新田)

私が子供のころも、観音さんはとても身近な存在で、学校へ行く前に友達と観音さんの所で待ち合わせをしたり、境内で馬跳びなどをしたりしてよく遊んだものです。今でも観音さんのご利益をいただけるよう、お参りしている人もよく見かけますよ。

現在、毎年区を挙げてお祭りを行っています。また、観音さんを守護神にした宮島新田観音太鼓も平成五年に発足しました。観音さんを通じて、人づくりやまちづくりにつながっています。これからも観音さんを大切にしてお祭りや観音太鼓などの新しい伝統を伝えていき、区に交流の輪が広がればいいと思います。

こちら編集室

市内のある商店街に、行きつけのお店（お酒を飲む場所ではない）がある。

お店との出会いは、約8年前。今ではこちらの好みをすっかり覚えてもらい、世間話をしながら品物選びに適切なアドバイスをもらっている。また、何も買わなくて

も笑顔で送ってくれる。

買い物をする数分間のコミュニケーションが積もって、店員の方への信頼感が生まれ育ち、私にとって街の小さなオアシスとなった。

もしかしたら、このように商店街には人それぞれのオアシスが集まっているのかもしれない。

人口 236,859人 (前月比+74)
男 117,992人 (+42)
女 118,867人 (+32)
世帯 77,508世帯 (+109) 8月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

